



いよいよ本校も学校運営協議会をスタートさせました。この学校運営協議会については、学校だより No.11 (6月17日発行) でもお伝えしておりますように、帯広市が、『学校・家庭・地域で目標 (目指す子ども像) を共有し、未来を拓く子どもたちを地域総掛かりで育むことを目的に導入してきました。さて、今号では、過日 (10月25日) 開催しました第1回学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) の様子を中心にお伝えします。

## 学校運営協議会発足 ～地域と共にある学校を目指して～



10月25日 (火) に第1回学校運営協議会が発足しました。学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクール (CS) といいます。教育委員会から任命された保護者や地域住民等の代表が一定の権限と責任を持って学校運営の基本的な方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、子どもに関する様々な課題解決に参画していきます。

今回は学校から、学校運営の基本方針を説明し、協議を経て承認していただきました (左写真)。委員の皆様は、

次の方々になります。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

- |           |                          |              |                    |
|-----------|--------------------------|--------------|--------------------|
| ☆ 國重 健一   | (本校PTA会長)                |              |                    |
| 佐々木 千賀子   | (帯西幼稚園副園長・学校評議員)         |              |                    |
| (総) 佐藤 慶子 | (学校図書ボランティア「ぽけっと」・学校評議員) |              |                    |
| 廣瀬 文彦     | (地域：廣瀬牧場)                |              |                    |
| ★ 松本 浩子   | (本校PTA役員OG・学校評議員)        |              |                    |
| (コ) 村上 早苗 | (学校支援地域本部地域代表)           |              |                    |
| 森 浩之      | (森のくまさん見守り隊)             |              |                    |
| (事) 坂田 香織 | (本校教頭)                   |              |                    |
| 寺澤 一      | (本校教務主任)                 |              | 敬称略 (五十音順)         |
| ☆会長       | ★副会長                     | (コ) コーディネーター | (総) 総務担当委員 (事) 事務局 |

次回は、2月下旬に開催し、「目指す子ども像」について協議する予定です。

## 伝承の遊びグッズの寄贈



今年度も昨年度に続き、西帯広ニュータウン老連様より、伝承の遊びグッズ(お手玉・だるま落とし)を寄贈していただきました。

コロナ禍でなければ、『昔遊び』など通して地域の方とふれあったり、交流したりできるのですが、現状では叶いません。寄贈いただいた遊び道具は、大事に使わせていただきます。コロナ禍終息後は老人会の皆様と子ども達との交流に活用していきたいと考えております。本当にありがとうございました。

## 5年生宿泊学習 ～ たくさんの学びがありました～

宿泊学習は、5年生の子ども達にとっては、初めて学級で寝食をともにする体験学習です。コロナ禍ではありましたが、児童会館でも感染症予防対策を講じていただき、宿泊を伴い実施しました(1組は10月4日～10月5日:2組は10月5日～10月6日)。

普段、学校では見られない友達の良さをたくさん見ることができたようです。工作教室では、「マイはし」作りに挑戦。紙やすりで丁寧に磨き、焼き印でイニシャルを入れて完成です。科学実験学習では、児童会館の担当の説明をしっかりと聞きながら学習に取り組む姿勢が立派でした。



※ 上段は5年1組、下段は5年2組の工作実験・科学実験の様子を写したものです。

## 後記

今号の標題「楓蔦黄(もみじつたきばむ)」(七十二候のうちの一つです)は、秋が深まるごとに色を重ね、まもなく散っていく紅葉は、移ろいゆく季節を愛でる日本人にとって格別なものであり、春の桜と同じくらい待ちわびられる存在だったことを表しています。紅葉(もみじ)の語源は「揉みいず」で色が揉み出されることからきているそうです。

～ 新型コロナウイルスに関わる対応を引き続きお願いいたします ～

